

業務システムの
最適解を目指す

Windowsシステム 拡充プロジェクト

ソنز株式会社
i-SITE PORTAL

CMS (Contents Management System) とは、Webサイトの構築の際に、テキストや画像データなどを一元管理／編集するためのシステムだ。CMSのポイントは、ユーザーの使いやすさにある。今回紹介するCMSは、このポイントをどう考慮しているのだろう。

ユーザーと開発者との ギャップ

ソنزが開発した「i-SITE PORTAL」は、ASP.NET対応のCMSパッケージだ。Webシステムの構築に必要な各種パーツがモジュールとして用意されている。この製品の一番の魅力は、システム開発者でなくても、ブラウザベースで自由に追加／修正できる点だ。このようにした理由について、代表取締役の鈴木尊善氏はソنز設立時を振り返ってこう話す。

「もともと私自身、システム開発の仕事をしていただけではなく以前は、既成の業務システムを使って各企業を

バックアップする仕事をしていました。たとえば、ホテルの顧客管理を行ったり、工場の在庫管理を行なうような仕事です。このような仕事をしていると、どうしてもお客さんのクレームにリアルタイムで対応しなければならぬケースが多々発生します。

ところが、ユーザー側と開発側にはギャップがあるんですね。リアルタイムで対応するにはものすごく使い勝手悪かったり、開発者にシステム変更をお願いしても変更に時間がかかることもありました。それなら、“自分で直そう” “自分で開発してしまおう” と考え、システム開発ベンダーとしてソنزを設立しました」

ソنز設立後は、観光のための検索システムや、地元の鳥取県に特化した雇用情報システムなどを開発。これらはすべてWebシステムだという。Webシステムに特化した理由とは？

「90年代のはじめにパソコン通信を通じて、たくさんの人たちと知り合いになりました。なかでも、障害のある人たちと知り合えたことに大きな刺激を受けました。障害に関係なくコミュニケーションが取れる。知り合いになれる。これは、ネットワークの大きな

魅力です。この魅力をなんとか仕事で実現したいと思いました。ですので、ソنزでは、Webシステムの開発／提供に特化したのです」

ASP.NETとの出会い

ソنزを設立してから、順調にWebシステムの開発を進めてきたが、ある日、大きなターニングポイントが訪れる。

「2002年に、地方自治体の大規模Webシステムの開発案件が舞い込んできました。開発期間は4か月。システムの仕様も見通せない状況でした。弊社の開発メンバーは少人数でしたので、いままでのやり方では到底間に合いません。そこで、開発期間4か月のうちの1か月は、納期どおりに作るにはどのテクノロジーを使えばいいのかを調査しました。そこで出会ったのがASP.NETです。もしASP.NETに出会っていなければ、この大規模Webシステムの案件の開発は間に合わなかったと思います。

i-SITE PORTALは、これまで大規模Webシステムで培ったノウハウをもとにして開発しました。その当時日本には、ASP.NETで作ったシステムはほとんどありませんでしたが、もっとよい



ソنز株式会社 代表取締役
鈴木 尊善

ASP.NETシステムができるのではないかと考えて開発しました」

ここで気になるのはASP.NETを採用した決め手だ。どのような点にメリットを感じたのだろう。

「ASP.NETは、パーツとしていろいろな部品がすでに用意されていますので、開発効率が格段にアップします。たとえば、新たに機能を追加する場合でも、イチから開発せずにわずかなコーディングだけで実装できるので楽です。

ASPのように、HTMLもスクリプトもひとつのファイルのなかに記述すると、ブラウザの種類によって表示が異なるなど、ビジュアルの最適化に悩んでしまうのです。ASP.NETでは、ビジュアルとロジックを分離して開発できますので、FirefoxだろうとNetscapeだろうと、同じビジュアルを確保できるというのは助かりますね。やはり各ブラウザに対応したビジュアルを気にしなくてもいいというのは便利です」

ASP.NETを使えば簡単にWebシステムを開発できてしまいそうだが、実際の開発となると、すべてがうまくいくわけではない。

「当時、まだ.NETが登場して間もないころでしたので、Visual Studio .NETの使い方や、ASP.NETを使った一般的な開発方法に関する情報はありました

が、実際に知りたい細かい情報がどこにもなく、手探りの状態で開発を進めました。

たとえば、Webのプロトコルをアナライザで解析して、変なデータを返していないかチェックしたり、ロールで閲覧権を制御する機能の場合には、閲覧できないかどうか、それぞれのユーザー層ごとにチェックしながら開発しました。

また、i-SITE PORTALは、ascx ファイルを簡単に書き直せますが、この仕組みを実現するのに大変苦労しました。というのは、通常ascxファイルのなかにあるイメージのパスとリアルパスが異なっているため、一般のHTMLエディタでは編集しにくいことがあるのです。ですので、リアルなパスが出るようにするために、冗長ともいえるフォルダ構成になっています。たとえば、「Browser」というフォルダのなかに、「CSS」フォルダがあり、また「Browser」というフォルダがあります。これを、IISの仮想ディレクトリ設定で調整すると、ascxファイルでイメージパスが、リアルなパスと一致するようになるのです。

通常のように、Visual Studio .NETを使ってASP.NETアプリケーションを作るときは、こんなことする必要はありませんが、ASP.NETをあまり知らな

いデザイナーは、どうやって一致させるか悩んでしまうので、システムの裏側で調整することになりました」

ケーススタディ

i-SITE PORTALを使えば、300～500ページくらいのWebサイトであれば、1か月くらいで運用開始できるという。実際にはどのような場面で利用されているのだろう。

「主に自治体や協会で使用されていますが、昨年、大手の電機メーカーから導入したいというお話をいただきました。その電機メーカーはいろいろな社内情報を共有することが目的で、最初は静的なHTMLで作ったWebサイトで情報共有していたのですが、どんどん情報がふくれあがり、情報を更新した当人でないと、どの情報が更新されたかわからないという状況だったそうです。それをi-SITE PORTALを使って解決したいとのことでした。結局、試験運用から本運用開始までの期間は3か月くらいでした」

上記電機メーカーのような状況を解決できたのは、i-SITE PORTALのWebパーツを簡単に追加／修正できる仕組みのおかげだ。システム開発に詳しくないWebデザイナーも、この仕組みを利用すれば威力を発揮するだろう。



拡充のポイント

- Webシステムのインストール／システム構築／運用まで、ブラウザベースで簡単に行なうことができる
- ナビゲーション機能、制御機能など、Webシステムに必要な不可欠な機能をモジュールとして標準で用意。独自のモジュールを実装することも可能

i-SITE PORTALの概要

ソノズ株式会社 代表取締役
鈴木 尊善 SUZUKI, Takayoshi

理想のCMS

「理想とするCMS」の全貌について書くことは誌面の都合上叶わないが、我々が思い描いているWeb情報システム（アプリケーション）のあるべき姿をあえて書くならば、「黒子に徹することができるシステム」である。つまり、システムの都合（仕様）が、ユーザーに可能な限り見えずに、開発ベンダー、Webプロデューサー／Webデザイナー、エンドユーザーといった、CMSに関わるすべてのユーザーが納得と満足のいくシステムだと考えている。その結果完成したのが「i-SITE PORTAL」だ。

i-SITE PORTALは、ASP.NET対応のCMSパッケージだ。インストールからサイト構築、サイト運用開始から運用メンテナンス、すべての操作をブラウザを使って簡単に行なうことができる。

たとえば、CMSでよく課題となるのはインストールだが、i-SITE PORTALの場合、一般のWindowsアプリケーションとまったく同様に特別なスキルを必要とせず、セットアッププログラムを実行するだけでよい。推奨動作環境下でのインストールは15分程度で完了。運用開始までのリードタイムを劇的に短縮することに成功した。

また、従来コストや労力を必要とするWebページやメニューの構成も簡単だ。サイトを運用しながらでも、WebブラウザベースのGUIツール「CSS／HTMLエディタ、モジュール配置エデ

ィタ」を使ってメニュー、ページ、コンテンツを自在に移動し、トップページも容易に再構成できる。

機能とモジュール化

ASP.NETでは、Webサイト構築に必要な機能をユーザーコントロールであるascxファイルとして実現できるが、i-SITE PORTALでは、Webサイトに必要とされる多数の機能をascxファイルとしてモジュール化している（図1）。用意されているモジュールは、上記のとおりWebブラウザベースのCSS／テンプレートエディタを使って自由自在に追加／移動／削除することができる（図2）。

現在、基本パッケージには、ユーザー用モジュールが40あまり標準で用意されている（管理系モジュールは別途30モジュール）。

モジュールは機能別に「ナビゲーション系」「コンテンツ系」「インフォメーション系」「コミュニケーション系」「機能制御系」に分けられる。各機能の代表的なモジュールを紹介しよう。

ナビゲーション系

トップ階層ページを束ねるタブメニューと、任意の階層にあるページ群を束ねるローカルメニューがあり、それぞれ縦型と横型がある。このモジュールを使用することにより、リンク切れのない階層化されたサイトを構築できる。

コンテンツ系

WYSIWYG HTMLエディタ内蔵のHTML文書モジュールを軸に、定番の情報系Webサイトを実現するニュースリストモジュールや、文書リストモジュールがある。これらのモジュールを利用することにより、機能性に富んだコンテンツを盛り込むことができる。イベントカレンダーとの連携も可能だ。

インフォメーション系

RSSリーダーモジュールや、システム連携を実現するWebサービスモジュールのほか、Webサイトに必須とされるRSSフィードを提供するPickUpモジュール、文書管理システムのようにオフィス文書、PDFなどのネイティブな検索をサポートする検索モジュールなどがある。

コミュニケーション系

メール配信／用語チェック／承認後公開機能などをサポートする掲示板モジュールのほか、すぐに利用できるブログモジュール、フォームメールを簡単に設置できるフォームメール送信モジュール、使い勝手のよい簡易投票モジュールなどがある。

機能制御系

重複カウントしない高機能アクセスカウンタモジュールのほか、ウィザード形式の画面遷移を実現するステージモジュール、複数のモジュールをひとつのモジュールとして扱えるモジュールセットモジュールなどがある。また、i-SITE PORTALユーザーが独自に機能拡張を行なうためのモジュールとして、プログラムフレームモジュール（Webサービス実装にも利用）もある。このモジュールはユーザーが自由にコードを記述し機能追加が可能となっている。

なお、モジュールのコピーと追加に制限はない。i-SITE PORTALにはない他のモジュールでも、Webブラウザで選択するだけで簡単にインポート／エクスポートできる。

これによりWebデザイナーは、テクノロジーに詳しくなくてもWebサイトで重要とされるオリジナルなビジュアルを追及することが可能となり、エンドユーザーが満足するサイトの構築を実現する。

理想のCMSから究極のCMSへ

ASP.NETのメリットのひとつに、Webサービスの実装が容易な点がある。現在、i-SITE PORTALでは、3タイプのWebサービスの実装／検証が完了している。

Amazon E-Commerce Service 4.0

Amazonから提供されている書籍情報のWebサービス

CityView Webサービス

『プログラミング Microsoft .NET』（日経BPソフトプレス刊）に掲載されているWebサービスクライアントの実装サンプル

GeOAP Webサービス

東京ガス・エンジニアリングにより有償で提供されているGISのWebサービス

今後のi-SITE PORTALでは、Webサービスの提供もさることながら、Webサービスで種々のシステムと連携することで、エンタープライズなCMSを目指している。そのために必要なことは、i-SITE PORTALがあらゆるシステムのフロントエンドとして協調でき

図1：i-SITE PORTALのシステム構成

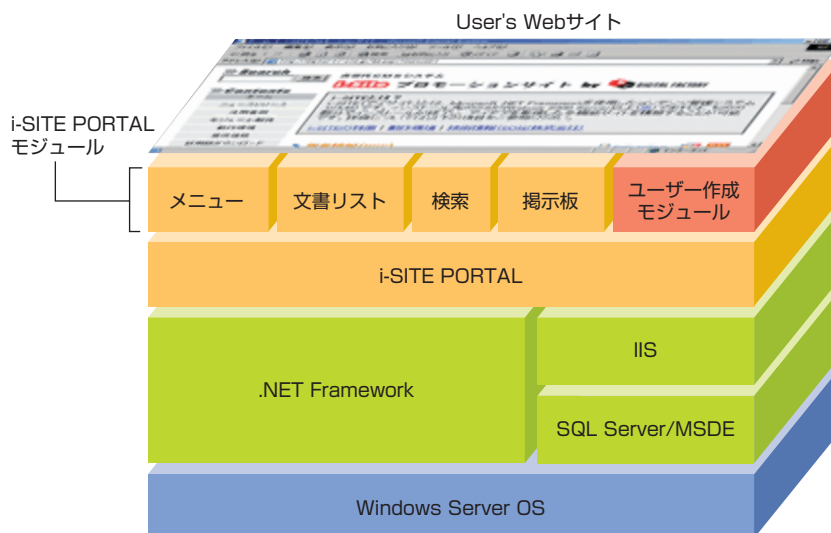
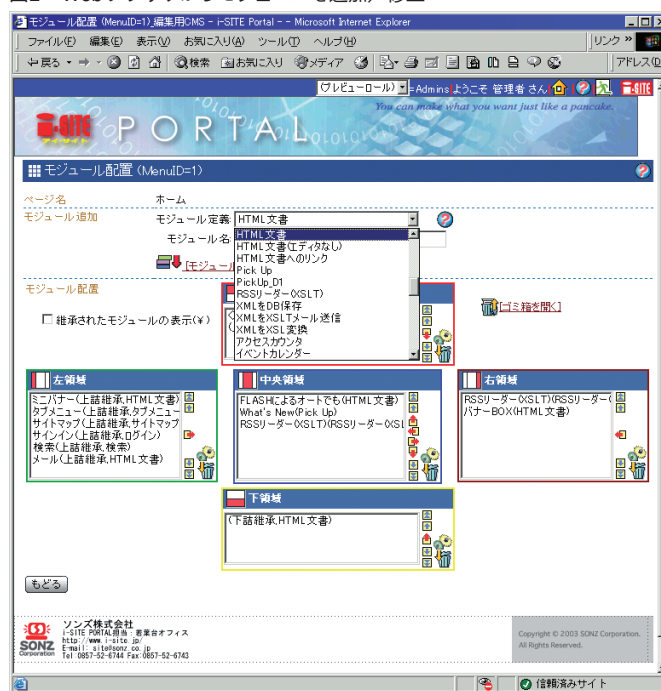


図2：Webブラウザからモジュールを追加／修正



るシステムとして成長することだと考えている。

これからのシステムでは、Webサービスによるシステム連携がオープンなシステムとして求められる半面、システム連携が可能になればなるほど、さらに特化した開発ができるようになる

だろう。

なお、以下のURLからi-SITE PORTAL試用版がダウンロードできる。ぜひ試してほしい。

<http://www.i-site.jp>